

訳者まえがき

大分大学 西村善博

本資料は、フランスの国立統計経済研究所（INSEE）によって 1988 年 9 月付けで刊行された文献 INSEE(1988), *Les sources statistiques sur les entreprises*, N° 592 des Collections de l'INSEE ; série E, n° 117 の 7~34 ページの翻訳である。すなわち、「序章 企業統計情報の公的システム」(pp.7~18) と、「第 1 章 基礎的手段」の「第 1 節 単位と分類」および「第 2 節 レジスターと調査の基礎」のうち「1 企業・事業所レジスター (SIRENE)」(pp.19~34) の箇所を訳出したものである。なお本資料では、序章について「I 企業統計情報の公的システム」、第 1 章の該当部分について「II 企業統計システムの基礎的手段」として掲載している。

INSEE(1988)は、「まえがき」によれば、次のような事情から刊行されている。情報に関する情報は、最近の数年に大きく進展している。しかしそれはまだ不十分なままである。とりわけ、企業に関する統計システムの総合的、完全な提示の必要性が、1977 年 3 月付けで刊行された文献、INSEE(1977), *Les statistiques d'entreprises, sources*, N° 221 des Collections de l'INSEE ; série E, n° 44 では、もはや満たされなくなった。こうして INSEE(1977) を現代化するために改訂が必要となり、その成果が今回、翻訳の対象とした文献 INSEE(1988)である。

本資料の主な目的は、INSEE(1988)の翻訳を通じて、フランスのビジネス・レジスター SIRENE (Système informatique pour le Répertoire des Entreprises et des Etablissements : 事業所・企業レジスターのための情報処理システム) を紹介することにある。

INSEE(1988)第 1 章によると、SIRENE レジスターは、1960 年代末にプロジェクトが開始され、75 年に設置されている（ただし、SIRENE の創設デクレは 1973 年である）。これまで 1986 年の SIRENE2 (管理ソフトウェア) への移行、2005 年の SIRENE3 への移行を経ている。したがって SIRENE レジスターの紹介と言っても、SIRENE2 への移行期頃までを対象としている。

INSEE(1988)の序章は、企業統計に関して「観察の仕組の全体的な理解を可能」(まえがき)とするもので、1980 年代までのフランス企業統計の展開および企業統計システムの方向性を包括的に理解する上で有用なものになっている。SIRENE レジスターについては、その成立の歴史的な背景や企業統計作成における重要な意義が簡潔に記述されるとともに、企業統計システムの中で、企業情報を構成する基礎的手段の一つとして位置づけられる。そして、「第 1 章 基礎的手段」の中で、その概要が記述されるという構成をとっている。

SIRENE2 への移行期頃までに SIRENE レジスターに生じた重要な変化として、1981 年の企業手続きセンター (CFE) の設置、SIRENE2 への経済事業所 (Etec 単位) の追加がある。この文献でも、それらの導入の理由・意義等に関する記述がある。とくに、Etec

単位に関する説明は、近年の文献では、簡略的なものが多く、非常に参考になるものと言えよう。なお CFE に関しては、その設置効果として、企業や事業所の申告が単一書式で行われるなどの大規模な行政的な簡素化によって、SIRENE レジスターの更新・質の検査がより容易となったと指摘されている (Picard,H. [1998] ,The Re-engineering of the French System of Registers)。

ETEC 単位のほかに、SIRENE レジスターに登録される単位として、企業 (SIREN 単位) と事業所 (SIRET 単位) があり、それぞれの登録番号 (あるいは識別番号) として、SIREN 番号と SIRET 番号がある。この 2 つの番号については、SIRENE レジスターの設置の前に使われていた旧 INSEE 番号との関係で、導入の理由が簡潔に記述されている。これについても近年の文献では記載がないか、あっても不十分な記載で理解しがたい点もあるので、興味深いところである。

いずれにせよ INSEE(1988)は、SIRENE レジスターについて、SIRENE2 への移行期頃までの展開を理解する上で、有益な文献と言えよう。ただし、この文献の本来の目的が企業統計システムの総合的な提示にあるという性格上、SIRENE の情報処理システムとしてのより具体的なデータ処理方法等については、不十分な扱いにならざるを得ないように思えるので、そのような側面を今後、検討する必要がある。

他方、SIRENE レジスターは、Picard(1998)によると、SIRENE2 の導入後の 1980 年代末以降、統計ツール (OCEAN : 企業年次調査の調整ツール) やデータベース (例 : FGE [大企業所ファイル] から発展した BRIDGE [大企業所に関する地域間データベース]) などとの接合が進展するとともに、1993 年のヨーロッパ規則 (統計目的のためのビジネス・レジスター構築における共同体の調整に関する 1993 年 7 月 22 日付け理事会規則) への対応を迫られる。さらに、90 年代後半にはシステムの再設計が課題となる。この再設計は、実際には、2000 年以降に進展し、2005 年の SIRENE3 への移行となる。このような SIRENE2 導入後の IRENE レジスターの展開についても、今後の検討課題とする。

最後に、INSEE(1988)は序章のほかに、9 章の各論から構成される。今回の翻訳作業から除外した第 1 章の後半部分には、RIM (手工業者の情報処理レジスター)、FILE (調査開始用統合ファイル)、RECME (国家が多数株主の企業レジスター) などや、会計原則の概要が提示されている。これらも企業統計システムの基礎的手段を構成する。また、第 8 章「データベースとファイルの統合」では、SUSE (企業統計統合システム)、FGE (大企業所ファイル) などの概要が示されている。こうした事項や章についても今後、翻訳等で公表の予定である。